

公開講演会

ボンヘッファーとエキュメニカル運動

ヒトラー・ナチス政権への抵抗運動に身を投じ処刑されたドイツ人牧師・神学者ディートリッヒ・ボンヘッファーの神学と生涯の中心には、エキュメニズムの思想と運動が深く関わっていた。ボンヘッファーの青年の頃からのエキュメニカル運動への関与はのちの抵抗運動のネットワークを醸成したし、全体主義国家への神学的抵抗の根幹には彼のエキュメニカルな教会理解があった。講演は、ボンヘッファーの神学と生涯へのエキュメニズムの影響を、彼の生涯全体にわたって丁寧に読み解くものである。

日時：10月15日(火) 10:45-12:15

場所：同志社大学 今出川キャンパス クラーク記念館 2階 クラーク・チャペル

講師：クリスチアーネ・ティーツ (チューリヒ大学組織神学教授)

フランクフルト・アム・マイン大学及びチュービンゲン大学においてプロテスタント組織神学と数学を専攻。チュービンゲン大学においてボンヘッファーについての博士論文を書いた。引き続きチュービンゲンにて、義認と自己受容の関係をテーマとして教授資格請求論文を執筆。客員講師として、チュービンゲン・ハイデルベルク・NY 他で教える。客員研究員としてプリンストンとシカゴに滞在。2008年から2013年までマインツ大学にて組織神学及び社会倫理学教授。2013年夏より、チューリッヒ大学・解釈学及び宗教哲学研究所にて教授。2008年より国際ボンヘッファー学会ドイツ語部会長を務める。

※本公開講演は、同志社大学大学院神学研究科 現代神学研究 2「現代神学の課題(2)——神と世界」(小原克博教授)を一般公開するものです。

共催：東アジア・ボンヘッファー学会 2013